

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	IPPO ジュニア		
○保護者評価実施期間	令和8年1月19日		～ 令和8年2月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	令和8年3月13日		～ 令和8年3月18日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動プログラムについて、お子様に応じて難易度の調整ができること。	<ul style="list-style-type: none"> ・主となる担当者が選定した内容に対して、全職員で意見を出し合い、組織的に決定している。 ・音楽やダンスを用いた準備運動で楽しく基礎運動を行う。 ・選択カリキュラム制を導入し、お子様が主体的に選択し取り組める環境を提供している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動プログラムにかかる知識および意識向上のための研修実施・受講を促進する。 ・事前のプログラム立案により、お子様がたくさんの内容に触れられる機会を確保する。
2	資質向上のための研修を定期的に行っていること。	<ul style="list-style-type: none"> ・月1,2回の研修を行い、資質向上に努めている。 ・支援スキル、社会人基礎力の研修等、幅広い内容で実施している。 ・拝聴のみではなく、発表やワーク形式による参加型の研修を行っている。 	
3	療育スペースが広く確保されていること。	<ul style="list-style-type: none"> ・壁をできるかぎり少なくし、開放感のある過ごしやすい環境をつくっている。 ・動線をシンプルにわかりやすくし、各スペースの広さを確保している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最適な室内レイアウトおよび備品について、常に検討しながら取り組む。 ・日常的に整理整頓を徹底し、スペースの確保および安全管理に努める。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の関係機関との連携が少ないこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・お子様の学校や他事業所等での様子を聞かせていただく機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自立支援協議会に参加し、近隣の事業所との関係性構築に努める。 ・学校や相談支援事業所との面談を行い、お子様に対する共通理解を深める。
2	社会プログラムの実施が少ないこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・お子様が楽しめるイベントを、さらに立案する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議等にてイベント計画を入念に行い、外出イベントの頻度を向上させる。 ・外出イベントが困難な場合は、近くの公園で遊ぶ機会や地域のボランティアの方と交流することで社会とのつながりを体験する機会を提供する。
3	専門的な支援の実施ができていないこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・現状、専門的な支援が実施できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団療育と併行して専門職員による個別療育を行うことで、多角的な支援の実施を検討する。 ・各療育の実施前に目標の設定を行い、各目標が連携されるよう配慮する。

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	IPPO シュニア
------	-----------

公表日 2026年3月30日

利用児童数 23名

回収数 18名

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	17	1	0	0		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	17	1	0	0		
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	17	0	0	0		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	18	0	0	0		
適切な 支援の 提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	16	2	0	0	【はい】 様子に合わせて丁寧に関わっていただいていると感じています。 【どちらともいえない】 ・先生による…。大切にもらっているのは伝わる。	・お子様に寄り添う支援を徹底します。 ・表情や発言等から、お子様の気持ちに寄り添った支援を行う。 ・お子様やご家族から、最近の様子や困っていることについてお聞きする機会をつくる。 ・定期的に職員研修ならびに勉強会を行い、意識・知識の共通化を図る。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	17	0	0	0	【はい】 無理なく取り組んでいると思います。	
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	18	0	0	0		
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	16	2	0	0		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	17	0	0	0		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	16	0	0	2	【はい】 日々考えてくださっていて楽しそうです。	
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	7	1	3	7	【いいえ】 ・地域の子と一緒にできるイベントがあるとうれしいです。 ・グループ内だけある印象。	・地域のイベントを実施する等で、地域との関わりを増やす。 ・他法人の事業所と連携をとり、規模の大きいイベント開催を検討する。
保護者 への 説明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	18	0	0	0		
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	18	0	0	0	【はい】 いつもわかりやすく説明していただき、ありがとうございます。	
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	7	0	3	8	【いいえ】 ・研修会や勉強会をしたいです。 ・ペアレント・トレーニングしてほしいです…。	・行政等からの案内について、保護者の方に有益な情報提供に努める。 ・全職員が自己研鑽し、家族支援プログラムの実施を検討する。
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	18	0	0	0	【はい】 日々の様子を共有していただき、ありがたいです。	
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	16	2	0	0	【はい】 ・玄関先で話しているけど、本当は事業所に行って落ち着いて話したい…。 ・いつも親身になっていただいています!!	・面談や相談援助の機会を増やす。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	17	1	0	0	【どちらともいえない】 ・職員による…。	・共感的な支援について、職員間で共通理解をし、知識を深め意識を高める。
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	3	2	3	10	【いいえ】 ・参観日やきょうだい児の会などつながりを持ち、交流できたらうれしいです。	・父母の会の検討と、保護者の方にお子様の頑張りを見ていただけるイベントの開催を検討する。	
19 子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	16	0	0	2			

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	18	0	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	15	1	0	2		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	17	0	0	1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	15	0	0	3		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	15	0	0	3		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	17	0	0	1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	17	1	0	0		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	17	1	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	16	2	0	0	【はい】 いつも楽しく、安心して通っています。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	16	2	0	0	【はい】 家庭では気づけない成長を教えていただき、ありがとうございます。	

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		IPPO ジュニア		公表日		2026年 3月 30日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	0	・限られた空間が広く感じられるよう、各活動で使用するスペースを壁ではなく間仕切り等で仕切っている。	・間仕切りによって児童の集中力が確保される一方で、死角が生まれやすくなるため、設備や間仕切り等の位置変更について、常に検討する。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	0	・死角が生まれにくいような職員の配置を行っている。 ・職員が個別対応している際は、別の職員に声をかけたりアイコンタクトをして意思疎通をしている。	・療育の質を高める観点から、備品レイアウト等の環境整備や各職員の支援スキル向上、配置職員の増加の検討を行う。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	0	・間仕切りで視覚的に区切ったり、療育マットにテープで線を示す等、わかりやすい環境をつくっている。 ・口頭での情報伝達が困難なお子様については、指折りで示したり、ホワイトボードを活用している。	・構造化している間仕切り等が老朽化しているため、早急に対応を行う。 ・小さな段差に対して、視覚支援で注意を促したり、歩いて移動する声かけ支援を引き続き行う。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	0	・お子様が安心して過ごせるよう、表情の変化に気付いたときに気持ちの聞き取りを行っている。 ・チェックリストを用いて、清掃や消毒等の衛生管理を徹底している。 ・運動あそびを行うお子様と、おもちゃで遊ぶお子様のスペースを分け、安全に配慮している。	・内容によっては窮屈さを感じる場面もあるため、備品レイアウト等の環境整備を行う。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	0	・お子様の気持ちや体調に寄り添い、適宜別スペースで過ごせるような体制づくりを行っている。	・視覚が遮断できるような個別の部屋はないため、今後ミニメント等の導入を検討する。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	0	・職員全員で業務改善にあたるよう、研修および職員間の面談にて周知をしている。 ・月1回、管理者と各職員の個別面談機会を行い、意見の聞き取りを行っている。	・朝礼終礼だけでなく、定期的に職員会議を開催し、目標確認ならびにその振り返りや改善策の共有を行う。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	・年1回、保護者の方に配布し回答をいただいている。 ・集計後、職員に共有し改善方法を検討している。	・業務改善の方法について、職員全員で意見を共有しあい最適な方法を組織的に決定する。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	・月1回、管理者と各職員の個別面談を行い、業務改善に関する聞き取りを行っている。 ・職員の意見を尊重し、備品の導入や方法の変更等について決定している。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	5	・現在、第三者による評価を行っていない。 ・グループ内の他事業所の職員と連携を回り、日常とは異なる視点での意見の抽出を行っている。	・第三者委員会の設置を検討する。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	5	0	・年間計画を立てて、法人だけでなく事業所単位での研修を実施している。 ・講義のみではなく、一部参加型の内容を行っている。	・特定の職員だけが研修講師を務めるのではなく、様々な職員が講師となって、意識・知識の向上を行う。 ・必要に応じて、外部研修への参加を行う。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	0	・適切に支援プログラムの作成・公表を行っている。	・定期的に支援プログラムを見直し、必要に応じて内容の更新を行う。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4	1	・事前に振り返りシートを配布し、保護者の方が落ち着いて考えられるような体制をとっている。 ・職員の意見を聞き、組織的に検討して作成している。	・日常的な振り返りおよび会議の精度を向上させ、より多くの情報から目標設定を行う。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4	1	・職員の意見を聞き、組織的に検討して作成している。 ・計画作成後は職員会議を開き共通認識を図っている。 ・臨機応変に対応を変更し、その場に適した取り組みを随時行っている。	・日常の支援に活かせるよう、目標を定期的に確認し、その方法についても随時話し合いを行う。 ・職員会議を行い、目標および支援方法の変更について随時検討を行う。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	1				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	0	・定められた記録だけでなく、社内で作成している様式に則って記録し、お子様に対する理解を深める取り組みを行っている。	・記録内容の多様化および効率化について検討し、必要に応じて記録様式の変更を行う。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0	・各イベントについて、どの項目に当てはまるかを照らし合わせながら計画を立てている。 ・各イベントに対して、楽しくいろんな経験を積むことができる内容の検討を行っている。	・職員会議の中で、各項目のねらいについて共通認識できるような話し合いを行う。 ・「地域支援・地域連携」については、社会見学の他、地域の方々と触れ合う機会の検討を行う。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	1	・担当職員が中心となって作成し、最終的に職員全体で検討し内容の決定を行っている。	・プログラム作成の段階で複数職員が携わり、幅広い内容の立案を行う。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	0	・日々の活動内容を記録し、記録を振り返りながらプログラムを決定している。 ・お子様が主体的に取り組めるよう、選択制カリキュラムを導入している。	・より主体的に取り組むため、お子様用の意見箱を設置したり、定期的にお子様の意見を聞き取る機会の提供を検討する。		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4	1	・集団療育を主としているが、お子様の状況に応じて別スペースで職員とマンツーマンで関わる機会を提供している。	・集団活動としての目標と個別活動としての目標を明確に記載し、双方がつながりのある療育を実施する。		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	0	・朝礼にて情報共有を行い、活動内容の共通認識を図っている。	・実施当日だけでなく、事前共有が可能な内容については早い段階で共有しチームで検討する。		

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	0	・当日の終礼にて情報共有を行い、改善案の検討を行っている。	・改善案の検討について、内容をより深く考えとともに、具体的な行動まで決定する。また、その内容を記録し出勤していない職員にも共有できる体制をつくる。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	0	・ITデバイスを活用して日々の記録をとり、振り返りがしやすい環境整備を行っている。 ・別の職員が記録の確認を行い、複数の職員で情報の確認を行っている。	・記録の振り返りについて、頻度の向上と効率化について検討する。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0	・全職員に評価シートを配布し、各職員からの情報収集を行っている。 ・児童発達支援管理責任者が書類作成後、職員会議にてチームで見直しを行っている。	・日々の業務からこれまでよりも幅広い視点で評価を行い、計画見直しの精度を向上させる。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	4	1	・運動プログラム、SST、イベントのすべてが、4つの基本活動のうちどれに当てはまるかを考えながら、詳細の内容を検討している。	・ボランティア等、地域の方々と触れ合う機会を増やせるよう検討する。
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定を育てるための支援を行っているか。	4	1	・イラストや着色等、お子様が創造して製作できるようなイベントを実施している。 ・運動プログラムを選択制のカリキュラムにし、自己選択および自己決定を促し、主体的に取り組む環境をつくっている。	・運動プログラム以外にも、自己選択したうえで取り組める内容立案および実施を検討する。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0	・実務経験が豊富な職員が参加し、日常の情報共有を行っている。	・各担当者会議が開催される前に、職員会議をさらに綿密に行い、より細かい情報共有ができるよう準備を行う。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	0	・適宜、学校の先生方との担当者会議に参加し、情報共有を行っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	0	・当日の状況を学校の先生から聞き、他職員に共有している。 ・行事予定については、学校の先生もしくは保護者の方から情報をいただき、下校時刻の確認を行っている。	・学校の先生や保護者の方との連絡調整を継続し、事前確認を改めて徹底する。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	0	・主に児童発達支援事業所と連携をとり、事業所での様子等について情報共有を行っている。	・児童発達支援事業所だけでなく、保育所や幼稚園、認定こども園との連携も強化する。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	0	5	・当事業所では、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行するお子様はいない。	・必要に応じて、方法を検討する。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	4	・児童発達支援センターとの連携はできておらず、研修受講やグループ内職員からの助言にて代用している。	・職員会議等にて情報収集を強化したうえで、児童発達支援センターとの連携を検討する。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	1	・外出イベントにて、地域のお子様と一緒に過ごす機会を提供している。	・地域のイベント等にて地域のお子様と触れ合う機会づくりを検討する。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	0	5	・積極的に参加できていない。	・地域との連携を図る観点から、積極的に参加する。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0	・主に送迎時に、事業所での様子や支援内容について伝えられている。 ・適宜、面談を行うことで、より深い情報共有を行っている。	・送迎時の情報共有を強化し、ご家庭での様子をお聞かせいただくことで、お子様の状況について共通理解を図る。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	0	5	・現在、家族支援プログラムは実施できていない。	・必要な知識および経験を蓄積し、ペアレント・トレーニングの実施を検討する。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0	・見学時にプログラム内容の紹介を行い、契約時に書面を用いて説明を行っている。	・説明の順序、言葉選び等、より丁寧に説明ができるようになる心がける。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0	・お子様の言動や表情等を見ながら、状況に応じて気持ちの聞き取りを行っている。 ・送迎時や電話連絡等にて、保護者の方からも情報収集に努めている。 ・お子様や保護者の方がより満足していただけるよう、可能な限りプログラムやルールの変更を行っている。	・お子様用の意見箱を設置したり、定期的にお子様の意見を聞き取る機会の提供を検討する。 ・事業所での様子を伝えたり、ご家庭や学校での様子をお聞かせいただく等、保護者の方との情報共有を綿密に行う。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5	0	・書面にて保護者の方に提示し、内容についても説明を行ったのち、同意および署名をいただいている。	・説明の順序、言葉選び等、より丁寧に説明ができるようになる心がける。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0	・必要に応じて、保護者の方との面談を行っている。 ・面談内容については、他職員に共有し支援内容の改善に努めている。	・送迎時だけでなく電話連絡等も含め、保護者の方から相談をしていただけるような体制を強化する。 ・より多くの面談が実施できるよう、方法を検討する。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	0	5	・現在、父母の会や保護者会およびきょうだいの交流機会はつくれていない。	・地域連携の観点からも、今後の実施を検討する。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0	・契約時に、書面にて窓口体制の説明を行っている。 ・関係者への事実確認や共有、改善策の立案について組織的に迅速に対応している。	・苦情が発生しないよう、お子様および保護者の方の満足度を向上させるべく寄り添った支援を行う。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5	0	・ホームページやInstagramにて、日常の様子を写真とともに周知している。	・定期的な通信の発行や写真の共有を検討する。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0	・重要書類は、鍵付書庫に保管している。 ・管理者へ重要書類を提出する際は、手渡しで行うよう徹底している。	・引き続き、鍵付書庫への保管を徹底する。

	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0	・お子様から職員へのボディタッチや、ホワイトボードを使用して意思の疎通や情報伝達を行っている。	・今後も、様々な状況に対応できるよう、お子様の状況に応じた意思疎通の方法を検討する。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	1	・法人として、地域のイベントに参加し地域との関わりを行っている。	・事業所として、地域の方と交流できる機会を検討する。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	0	・各種マニュアルを作成し、適宜職員への内容の周知を行っている。	・既存マニュアルの見直しおよび職員への再周知を徹底する。 ・保護者への周知を強化する。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	0	・お子様と一緒に自衛消防訓練を実施し、Instagram等で周知している。	・業務継続計画（BCP）の見直しを適宜行う。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	0	・契約時に、書面にて服薬やてんかん有無等の必要情報を聴取している。 ・副作用や対処方法について、職員間で共有している。	・服薬の変更等があった場合は、他職員へ迅速に情報共有する。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	1	・契約時に、書面にてアレルギー有無について確認している。 ・誤って提供しないよう、他のお子様と違う場所で管理し、提供前に複数の職員で成分の確認を行っている。	・引き続き、他のお子様と違う場所での管理と、複数職員での事前確認を徹底する。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	0	・安全計画を策定し、研修や訓練を行っている。 ・日常的に、危険が生じる可能性がある場所については保護や補修を適宜行っている。	・安全計画の見直しや、これまでよりも組織的に取り組む体制づくりを行う。 ・安全計画を見直した際は、改めて周知を行う。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	0	・避難訓練等、事業所で実施した取り組みを随時周知している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	1	・当日の終礼や翌日の朝礼にて、共有を行っている。 ・定期的に職員会議を開き、再発防止策について検討を行っている。	・ヒヤリハットが発生した際は迅速に共有し、全職員で再発防止に向けた方法を組織的に検討する。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0	・年2回、グループ全体で研修を行っている。 ・各研修で異なる内容の研修を行い、広い知識・高い意識をもって取り組む体制をとっている。	・各研修の中に、対話形式および実践形式の研修を交えたの実施を検討する。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	0	・現在、身体拘束が必要だと判断したお子様はいない。	・身体拘束が必要となった場合は、三要件に該当するか慎重に検討し、必要な手続きを経てから実施する。	